

災害から命を守る 「防災関連アプリ」 おすすめ5選

近年は地震や集中豪雨、台風といった災害が多発しています。そこで、いざというときにスマホに入れておくと役立つアプリを紹介します。

株式会社ペロンパワークス・プロダクション
藤 田 陽 司



図表1 設定した地域の情報を
「防災情報通知」で確認する



Yahoo! JAPAN の「Yahoo! 防災速報」は、「防災情報通知」「災害マップ」「防災手帳」という3つの機能が利用でき、さまざまなアプローチから情報収集や普段の備えの確認などができます。

(1) Yahoo! 防災速報(無料)

防災アプリをスマホに入れておけば、災害時でも慌てず対処することが出来ます。どのような災害が起こるかわからないので、防災アプリは多機能のものを選ぶのが1つのポイントです。

幅広い情報をタイムリーに
収集できる災害情報アプリ

「防災情報通知」では、地震・豪雨・津波をはじめ14種類の災害情報を提供しています。自治体をあらかじめ設定することで、該当地域の被災状況や避難情報を素早く確認したり、自動通知を受け取れたりします(図表1)。現在地のほか国内3地点まで選べるので、出張先でも役に立ちます。

「災害マップ」は、画面上の地図で、各地の災害状況をリアルタイムで確認できる機能です。ユーザーからの投稿や連携パートナー(報道メディア、NPO団体など)の情報提供により、さまざまな災害の危険情報が随時更新される点が特長です。

えを行なううえで役立つ情報を使っても閲覧できます。

たとえば、災害シチュエーションごとの避難手順、やってはいけないことなどがわかりやすくまとめられています。また、備蓄品リストや持ち出し品リストとして、災害時に必要なアイテムも掲載されています。

(2) NHKニュース・防災(無料)

災害発生時には、正確な情報をいち早くつかむことが重要です。

「NHKニュース・防災」では、NHKが提供する信頼性の高い気象・災害情報をチェックすることができます。

メイン機能の「災害情報」には、「津波」「地震」「台風」などさまざまな項目があり、いずれかを選ぶことでその災害についての速報を確認できます。

たとえば「台風」を選ぶと、予想進路などの台風情報が表示されます。「大雨」を選択すると自治体ごとの大雨情報や、データマップによるリアルタイムでの雨雲の動きが把握できます。

また、災害時には具体的な避難場所なども掲載されるので、緊急時に役立ちます。現在位置や登録

した自治体の情報も個別で選択することが可能です。

そのほかに、「ニュース」や「天気予報」「ライブ」といった機能も利用できます。「ニュース」ではNHKが配信するさまざまなカテゴリーのニュースを配信しています。

「天気予報」では、豪雨や降雪、台風の災害情報などが把握可能です。また、「ライブ」では、災害発生時にNHK総合テレビと同じ内容の災害関連ニュースが同時提供されたり、ライブカメラで災害の状況が配信されたりします。

信頼性のみならず、速報性・重要性が高いNHK総合テレビの放送内容を、外出先からでもスマホで確認できるのは大きなメリットといえるでしょう。

(3) 特務機関NERV防災(無料)

大手法人が提供するサービス以外にも、実用性の高い防災アプリがあります。情報セキュリティ事業を営むゲヒルン株式会社「特務機関NERV防災」がその1つです。

このアプリで好評を得ているのが、地震速報や災害警報などの配信の速さと正確性です。防災・気象情報を気象業務支援センタ―

(気象庁本庁舎および大阪管区気象台内)と接続した専用線から直接受け取ることで、国内最速レベルで配信しています。

バリアフリーデザインとなつてあるアプリ画面もポイントです。色覚異常の人でもわかりやすい配色であったり、視覚障害や読字障害のある人でも情報を取得できる音声読み上げ機能も付属するなど、あらゆる人へ情報が届くように配慮されています。

取り扱う情報は幅広く、天気や台風の予報をはじめ、雨雲レーダー、地震・津波・噴火の速報、土砂災害・河川の情報、大雨危険度、さらにはJアラート(国民保護情報)やダム放流通知までさまざまです。現在の位置情報や特定の自治体を設定することで、利用者に最適な防災情報を受信することができます。

また、緊急地震速報(警報)や津波情報などの緊急性が高い情報を「重大な通知」として知らせてくれます。マナーモードやおやすみモードの設定中でも、音や振動で強制的に通知されるので、素早い災害対応が可能となります。

そのほかの機能として、「ホーム」「タイムライン」「リーダー」

「天気予報」があります。「ホーム」画面では、「全国」「現在地」「登録地」タブから、それぞれの気象・災害情報を見ることが出来ます。

たとえば、国内のどこかで地震が発生した場合、ホーム画面に地震情報が自動的に掲載され、最大震度や発生時刻などの情報を素早く入手できます。

一方「タイムライン」では、発表された気象・災害情報を時系列で確認できます。大雨による洪水や土砂災害などは、状況の進展に応じて関連情報が立て続けに発信される場合も多いので、タイムライン画面を見て災害情報を整理すれば、自身に関係がある情報だけを追うことで避難行動がしやすくなるでしょう。

「リーダー」は雨雲の状況をリアルタイムで配信。画面下部の時間軸を左右に動かすことで、過去の動きから数時間先の予測に至るまで確認可能です。

「天気予報」では、全国各地の天気予報が表示されます。画面の上半分に地図が表示されており、特定の地点をタップすることで、その自治体の予報がすぐに見られるので、地名を検索するなどの手間を省くことができます。

従業員同士やプライベートで 使える安否確認アプリ

ここからは、ユーザー同士で安否確認を行なうための「安否確認アプリ」を紹介します。

(1) 安否確認サービス(有料)

従業員の多い企業では、全員の安否確認を行なうため回答結果を集計するのは時間がかかります。災害時には迅速な状況の把握が求められるので、緊急連絡手段や管理方法を自動化・一元化しておきたいところです。

そんなときにオススメなのが、国内警備最大手であるセコム株式

図表2 安否確認したいメンバーを追加できるホーム画面



会社の「安否確認サービス」です。法人として契約し、全従業員がアプリを利用することで、災害時の連絡手段や安否情報管理を自動化・一元化できます。

地震が発生したり特別警報などが発令されたりした場合、あらかじめ取り決めた規定にもとづいて、セコムが従業員に安否確認通知を行ないます。

従業員はアプリを利用して状況を報告。結果は自動的に集計され、所定のユーザーが確認できます。事業所が点在するグループ企業であっても、各所の安否確認結果を本社などで一元管理できます。

オプションとして、携帯電話のGPS機能を利用し、従業員の位

置情報を取得することも可能です。従業員の報告内容ともに、その現在位置を地図上で見られます。

また、事業所の被災状況も地図で確認できます。

このアプリの大きな特長は、セコムが災害情報を独自に収集する点にあります。災害の知識を持った専門スタッフが、公的機関などから入手した災害情報を迅速に確認。情報の精度を慎重に判断しつつ、顧客に向けてスピーディーに発信します。

(2) ココダヨ(無料)

少人数で事業を営んでいたり、家族のためにも安否確認アプリを入れたい従業員がいる企業であれば、株式会社ゼネテックの「ココダヨ」がオススメです。

家族で安否確認を行なう場合、アプリ内でグループを作成して家族をメンバーに加えます。アプリをダウンロードしたら、画面下部の「ホーム」のタブから「グループにメンバーを追加する」を選びましょう(図表2)。メッセージアプリの「LINE」またはメールで、家族にグループに参加するためのURLと招待コードを送ることができます。

「LINE」あるいはメールを経由して家族が参加すると、ホーム画面には新たなメンバーが追加されます。グループの参加者は「詳細情報」からプロフィールを変更できます。グループ自体のプロフィールも、グループ名の左側にあるアイコンをタップすることで同様に変わります。

震度5弱以上の緊急地震速報が発信されると、グループメンバーに安否の報告が求められます。

報告の結果はホーム画面でメンバーごとに確認できます。

さらに、地震情報に連動して家族の位置情報が瞬時に共有されます。ホーム画面で、メンバー名の右側に現在地の名前が表示されるほか、ホーム画面の「みんなの居場所を地図で見る」をタップすれば、地図上でも確認できます。

ホーム画面から「グループチャット」の画面にも移動でき、グループ内でメッセージや位置情報のやりとりが可能です。災害時には伝言掲示板として使えます。

なお、これらの機能は地震のときだけでなく、警戒レベル3以上相当の大雨情報を検知した際にも利用できます。大雨情報がメンバー全員にプッシュ通知される

ので、通知を確認したかグループチャットで共有することで、家族が災害に気付いているか確認したり、避難を呼びかけたりできます。

画面下部には「ホーム」以外に、「天気」「災害&警報」といった機能もあり、各地の天気予報や災害情報などを確認できます。

また、「避難所」というタブもあり、現在地付近にある指定避難所が一覧で表示され、現在地からの距離や経路を確認することができます。

防災アプリの利用に欠かせない「通知」と「位置情報」の設定

防災アプリには、緊急性の高い災害情報を迅速に知らせる「通知」機能があります。これは利用者がスマホを見ていないときでも、情報を受信したことを音や振動、画面の表示で知らせる仕組みです。

スマホには、余計な通知を取得したくないユーザーのために、ア

ようにしておきましょう。

スマホではアプリごとに位置情報もオン・オフが選択できます。防災アプリにおいて位置情報は、現在地の災害情報を優先的に配信したり、安否確認のため家族と位置情報を共有したりするために必要です。iPhoneでは、ホーム画面「設定」の「プライバシー」から、「位置情報サービス」を選択します（図表3）。アプリの一覧が表示されるので任意の防災アプリを選び、「常に」をタップしましょう。Androidの場合は、「設定」から「位置情報」を選択し、防災アプリを「常に許可」に設定します。

バッテリー切れに備えて省電力化の方法も確認

災害が起きたときには停電が発生して、スマホの充電が難しくなる場合があります。

また、外出中であれば、そもそも充電手段を確保できない可能性が高いでしょう。バッテリーが切れれば、防災アプリを使った避難行動もとれません。

そのため、災害時に備えてバッテリーを節約する方法も覚えてお

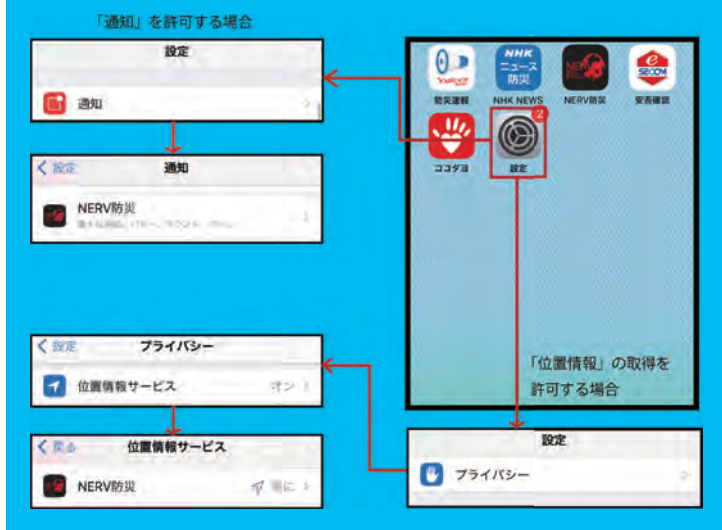
きましょう。

最優先で行なうべきなのが、スマホの画面を暗くすることです。なぜなら、スマホにおいてバッテリーを一番消費するのが画面のバックライトだからです。iPhoneでは、ホーム画面「設定」の「画面表示と明るさ」で、明るさを調節できます。Androidの場合は、「設定」の「画面設定」から明るさを調節できます。

次に行なうべきは、スマホが不必要に作動してしまわないように、災害時に使わないアプリの通知等を切っておくことです。防災アプリの通知をオンにする手順と同様に、ホーム画面の「設定」から「通知」をタップし、通知を切りた

いアプリを選んで設定可能です。最後に、多くのスマホにはバッテリーの消費を節約する「低電力モード」「省エネモード」などと呼ばれる機能があるので設定しておきましょう。iPhoneの場合はホーム画面の「設定」から「バッテリー」を選び、「低電力モード」をタップします。Androidの場合は、「設定」から「バッテリー」をタップし「緊急省電力モード」を選ぶことで、バッテリーの消費を節約することができます。▲

図表3 「通知」と「位置情報」を設定する手順(iPhoneの場合)



プリごとに通知をオン・オフに切り替える機能があります。iPhoneであれば、ホーム画面の「設定」から「通知」をタップし、任意の防災アプリを選びます（図表3）。Android